

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-142213

(43) 公開日 平成9年(1997)6月3日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 R 1/06		7447-3D	B 6 0 R 1/06	E

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-339824

(22) 出願日 平成7年(1995)11月21日

(71) 出願人 592015514

株式会社加藤製作所

東京都葛飾区西新小岩4-34-3

(72) 発明者 土屋 俊二

神奈川県横浜市港北区新横浜3-24-5

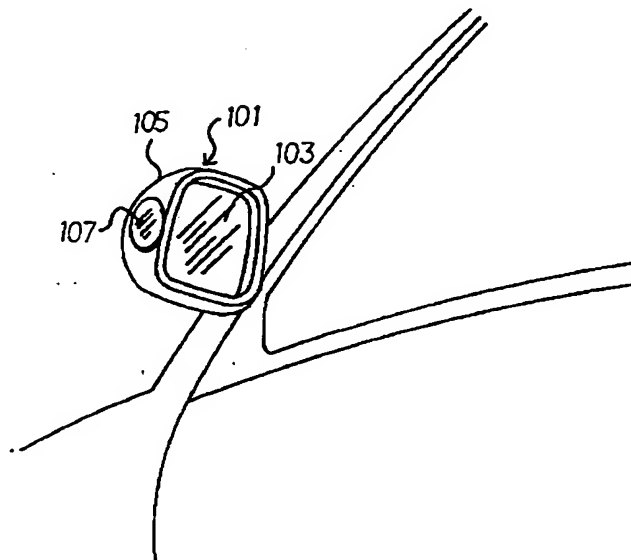
株式会社アイトロン内

(54) 【発明の名称】 格納式ドアミラー

(57) 【要約】

【課題】 ドアミラーが格納された状態でも運転者が後方を振り向くことなく後方視界を確認することができる格納式ドアミラーを提供すること。

【解決手段】 展開した状態でミラー103が車両後方視界を写し、必要に応じてミラー103を格納することができる格納式ドアミラー101であって、ミラー103を収納するミラー収納部105の外辺に、ミラー103が格納されたときに、車両後方視界を写すサブミラー107を固定した。



**【特許請求の範囲】**

**【請求項 1】** 展開した状態でミラーが車両後方視界を写し、必要に応じて該ミラーを格納することができる格納式ドアミラーであって、

前記ミラーを収納するミラー収納部の外辺に、前記ミラーが格納されたときに、車両後方視界を写すサブミラーを固定したことを特徴とする格納式ドアミラー。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【発明の属する技術分野】** この発明は、格納式ドアミラーに関する。

**【0002】**

**【従来の技術】** 周知のように、自動車の左右後方を視認するための手段として、自動車のフェンダ位置に備えられるフェンダミラー若しくはドア位置に備えられたドアミラーがあり、近年では、ドアミラーが広く採用されている。ドアミラーは、運転車の斜め前方ドア取り付け位置近傍で自動車本体から突出しているため、駐車時に歩行者の邪魔になったり、若しくは狭路を通行する時に、側面の障害物と干渉する等の問題がある。

**【0003】** そこで、近年では、展開しているドアミラーを必要に応じて格納可能な格納式ドアミラーが普及している。格納式ドアミラーによれば、駐車時若しくは狭路を通行する時等、左右に展開しているドアミラーを格納することができるため、駐車時に歩行者等の邪魔にならず、またドアミラーとの干渉により不可能であった狭路の通行を可能にする。

**【0004】**

**【発明が解決しようとする課題】** しかし、上述の格納式ドアミラーは、展開したドアミラーを格納することができるため、ドアミラーと側面の障害物との干渉を回避することができるものの、格納した状態ではミラー面が運転者と対向しないため、左右後方を確認することはできない。従って、例えば、駐車後、運転者が降りようとして、後方を確認する場合は、ドアミラーに頼らず、運転者が後方に振り向いて後方視界を確認しなければならないという問題がある。

**【0005】** そこで、この発明は上記事情に鑑みて成されたもので、ドアミラーが格納された状態でも運転者が後方を振り向くことなく後方視界を確認することができる格納式ドアミラーを提供することを目的とする。

**【0006】**

**【課題を解決するための手段】** この発明に係わる格納式

ドアミラーは、展開した状態でミラーが車両後方視界を写し、必要に応じて該ミラーを格納することができる格納式ドアミラーであって、前記ミラーを収納するミラー収納部の外辺に、前記ミラーが格納されたときに、車両後方視界を写すサブミラーを固定したものである。

**【0007】**

**【発明の実施の形態】** 以下、この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図 1 はこの発明の一実施例を示している。図 1 に示されるように、格納式ドアミラー 101 は、ミラー 103 を収納する矩形のミラー収納部 105 の短辺に、格納式ドアミラー 101 が展開した状態で外向するサブミラー 107 が接着等により固定されている。格納式ドアミラー 101 が、略 90 度回転して格納されると、ミラー 103 は車両後方視界を写さないが、サブミラー 107 が車両後方視界を写す。従って、運転者は、格納式ドアミラー 101 が格納されたときは、サブミラー 107 を介して後方視界を確認することができる。サブミラー 107 の外形状は特に限定されないが、ミラー収納部の短辺固定位置で、ミラーの必要面積を確保するために、方形形状にすることが好ましい。また、サブミラー 107 の面形状は、特に限定されないが球面にすることにより視界範囲を広くすることができる。

**【0007】**

**【発明の効果】** 以上説明した発明によれば、展開した状態でミラーが車両後方視界を写し、必要に応じて該ミラーを格納することができる格納式ドアミラーであって、前記ミラーを収納するミラー収納部の外辺に、前記ミラーが格納されたときに、車両後方視界を写すサブミラーを固定したので、ドアミラーを格納したときでも、サブミラーを介して後方を確認することができる。また、ドアミラーが格納されると、サブミラーが後方に向くため、後方から照明されると、サブミラーにより反射されるため、夜間等では駐車位置を外部に認識させることができる。

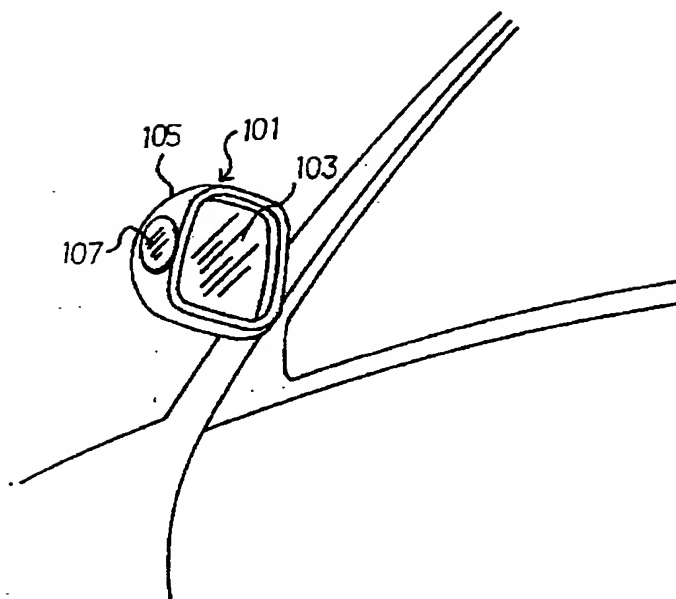
**【図面の簡単な説明】**

**【図 1】** この発明の一実施例を示す図。

**【符号の説明】**

101 格納式ドアミラー  
103 ミラー  
105 ミラー収納部  
107 サブミラー

【第1図】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**